

～甲子園での熱闘の記録～

# 貫いた 菊川野球

第100回全国高等学校野球選手権記念大会  
in 阪神甲子園球場 2018.08.07 - 08.17

2007年にセンバツを制し、翌年夏も準優勝した常葉大菊川。今回は、豪快なフルスイングと果敢な走塁、堅い守備などの選手が主体的に考え失敗を恐れずプレーする「菊川野球」が、全国から注目されました。

大会3日目の8月7日、初戦の相手は島根県代表の益田東高校。常葉大菊川は、1点先制された三回、根来選手の二塁打で同点とし、この回4得点。四回には、奈良間大己選手が低めの球をバックスクリーンへ運ぶ2点本塁打を放ち、得点を重ねます。6対7で迎えた八回には、奈良間選手の打席で神谷亮良選手が仕掛けた三塁への盗塁が、相手捕手の悪送球を誘い、これが決勝点となって、8対7で競り勝ちました。

2回戦では、宮崎県代表の日南学園と対戦。0対0で迎えた三回



## 常葉大菊川らしいチームと野球をこれからも

常葉大学附属菊川高校硬式野球部 **高橋 利和** 監督

チームのためを思って行動できる選手が多く、良かったことしか思い出せないくらい、良いチームでした。選手主体のチームで、選手はやりにくいこともあったかもしれないけれど、彼らの頑張りで甲子園に出場することができました。

多くの皆さんに応援していただき、感謝しています。甲子園に出場したことで、選手たちも市内で声を掛けられることがあり、とても励みになっています。これからも常葉大菊川らしい野球で菊川市を盛り上げていけたらと思います。



に鈴木選手の適時打で先制し、その後も六回に代打・岡田竜汰選手八回に伊藤勝仁選手が適時打で追加点を挙げ、点差を広げました。守備では、主戦の漢人友也投手が打たせて取る投球で、わずか88球で完封。3対0で2回戦を突破し、16強入りを決めました。

3回戦では、初戦で春の甲子園準優勝校を退けた滋賀県代表の近江高校とベスト8をかけて戦いました。試合は初回に先制され、三回・五回と追加点を許す苦しい展開。七回に1点を返し、九回には奈良間選手の三塁打を皮切りに反撃を開始し、2死三塁の場面では伊藤選手が本塁打を放つなど、3点を返す粘りを見せましたが、点差を縮めることはできず、3回戦での敗退となりました。

8強入りを前に涙をのんだ常葉大菊川。堅実な守備と最後まで貫いたフルスイング、ノーサインでの積極的な走塁という挑戦する「菊川野球」は、全国に「菊川」の名を印象付けてくれました。そして、選手の活躍が、甲子園を夢見る子どもたちや観戦する私たち市民に多くの感動や希望を与えてくれました。新チームも始動し、これからも引き継がれ、さらに進化していくであろう「菊川野球」。今後も選手の活躍に期待が高まります。



8



11



12



10



9

1\_チームのリードオフマン奈良間選手 2\_アルプススタンドから声援を送る応援団 3\_笑顔でベンチに戻る選手たち 4\_1回戦と3回戦に登板した榛村大吾選手 5\_県大会決勝でサヨナラ打を放ち、守備でも活躍する東選手 6\_1回戦で堅実な守備を披露 7\_笑顔でエールを送るチアリーダー 8\_三塁を駆け抜けホームを目指す鈴木選手 9\_プラスバンドにあわせて応援する選手たち 10\_三塁を守る海瀬隼兵選手 11\_大声援のアルプススタンドにお礼をする選手たち 12\_風になびく応援団旗

## 自分たちの野球を貫くことができました

常葉大学附属菊川高校硬式野球部 奈良間 大己 主将(菊川西中出身)

春の県大会の結果を考えたら、ここまで勝ち上がれるとは思っていませんでした。どの試合でも積極的に攻めて楽しんでプレーすることを心掛け、自分たちの野球を貫くことができました。試合に出られなかったメンバー、ベンチに入れなかったメンバーをはじめ

め、熱い声援を送ってくれた人たちの支えがあって、最後まで戦い抜くことができました。最高の仲間と甲子園で戦えたことは、野球人生の中でも忘れられない思い出です。

高校野球での経験を糧に、今後も頑張っていきたいと思います。

